

令和元年度 SSTA 科学教育若手教員研修会 福岡南大会 報告レポート

大会テーマ「子ども達に科学の面白さを伝える教材化の工夫」

1. ねらい

- 自然の事物・現象に教師自らが親しみ、その感動を児童・生徒に伝えることのできる教師になる。
- 基本的な観察の技能を身に付ける。
- 教材解釈、教材理解するとともに、どのような場面でどのように指導をするのか、計画を立てることができる。
- 他の支部の同年代の研修生と共に学び研修することで、これからも切磋琢磨することのできる仲間づくりをする。

2. 日時

令和元年6月15日(土) 13:00(受付12:30～)～16日(日) 12:00

3. 開催場所

名称) 休暇村 志賀島 住所) 〒811-0325 福岡市東区大字勝馬 1803-1

4. 参加者

- 研修員 15名
福岡北支部 2名 福岡南支部 3名 長崎支部 2名 熊本支部 2名
大分支部 2名 宮崎支部 1名 鹿児島支部 2名 沖縄支部 1名
- 幼児教育研修員 8名 (オブザーバー参加)
大分支部 5名 福岡南支部 3名
- SSTA 本部役員 副理事長 淵上正彦 様 (福岡北支部)
常任理事 吉永公紀 様 (熊本支部)
- 企画研修員 松永庸助 様 (福岡北支部) 井上竜作 様 (熊本支部)
- 財団職員 財団理事長 根本章二 様 SSTA 事務局 関根好幸 様
- 福岡南支部スタッフ ○次期開催支部 福岡北支部より 4名

5. 研修内容

- 事前研修
・学習指導要領(小・中)における生物の取扱いの系統について事前に調べ、まとめる
- 全体研修(90分)
・フィールドワークのポイント ・磯の生き物の観察
- 班別研修Ⅰ(150分)(勝馬海岸)講師: マリンワールド 学芸員 岩田知彦先生
・生物領域のフィールドワークを通して、教材分析や教材理解を図る
・どの単元やどの場面に活かせるか検討する
- 班別研修Ⅱ(150分)
鳥コース(講師: 高原先生) A・B海の中道海浜公園へ(車で移動)
植物コース(講師: 荒瀬先生) C・D 休暇村裏山道へ(徒歩で移動)
・教材を解釈し、どのような場面でどのように活用するか検討する
・教材の価値、教材化を班で議論し、まとめる
- 班別研修Ⅲ(90分)
・指導の実際場面における模擬指導の検討
- 全体発表会
・班ごとに模擬指導を含む発表を行い、質疑応答を行う
- 事後研修
・実際にご自分の学校で実践を行ったり、支部での活動報告の際に報告したりする

6. 研修の成果

○1日目 6月15日(土)

～フィールドワークを通して～

- ・フィールドワークを行う中で、研修生同士の体験の中での会話や共同作業で交流がみられた。
- ・全員が同じ体験を行うことで、共通の議論の土台や自然の見方、教材研究の在り方を学ぶことができた。
- ・どの活動にも講師(専門家)を配置することで、自然の見方自体を学ぶことができた。
- ・施設が充実しており、施設の送迎バスなどを利用したり施設の裏山の自然観察を行ったり、近隣の国立公園を利用したりしたことで、コストダウンや活動時間の確保につながった。
- ・4班に分け、2班ごとに野鳥・植物のそれぞれのコースに分けたことで、少人数の活動ができるとともに、共通体験をしたグループ同士の交流や質疑の充実につながった。(大分支部参考)



～模擬指導の議論～

- ・ゴールを最初に明確化し、指導案ではなく教材化を通して子どもに「伝える」ことに主眼をおいて研修を設定したことで、時間・内容共に無理なく研修できた。
 - ・班ごとに福岡南支部のサポーターを配置したことにより、全体の提案に向けての方向付けができ、研修の趣旨へと成果を近づけることができた。
 - ・23:00からは就寝準備を必ずするよう伝えたことにより、集中した議論ができた。
- ・各班に1台ずつレンタルパソコンやプロジェクター、USBなどを配置したことで、参加者の荷物軽減や研修の効率化につながった。

○2日目 6月16日(日)

- ・2日目の朝にも研修時間を設けたことで、昨日の内容を整理し、発表に向けての準備がしっかりできた。
- ・発表を同じ体験グループ2班ごとに行い、互いに質疑やアドバイスをすることで、内容の深まりがあった。

7. 課題

- ・夕食をバイキングにしたが、お弁当よりもやや高めの設定になって食費が負担になってしまった。しかし、参加者からは大好評であった。(夕食: 2100円)
- ・趣旨やゴールを理解しない方が班別の議論を遮ってしまう場面があり、途中からのオブザーバー参加者にも理解を促す必要がある。
- ・企画研修員の指導に関しても、支部から趣旨を伝える必要がある。

8. おわりに

今回、福岡における宿泊場所確保困難や宿泊費などの高騰により、研修の運営面などで苦慮したが、ソニー教育財団のあたたかいご支援の下、盛会にて実施できた。この場をお借りして感謝申し上げますとともに、次期開催支部へ成果と課題をつなぎ、九州で盛り上げていきたい。

